

インドネシアの若者は起業を目指す

中川 智明

今回は、インドネシアのスタートアップ企業についてお伝えします。

インドネシアでは、最近は若手経営者によるIT関係の起業が盛んです。既に大企業となり、有名なのは Gojek や Grab ですが、それ以外にも沢山のスタートアップ企業が誕生していると思われます。

「人々が起業しない」と言われて久しい日本の状況とは大きく違うことから、その理由となる背景を、以下のように、私なりに考えてみました。

●理由 1：若い人が多く、エネルギーがある

インドネシアの平均年齢は 29 歳であり、日本の 45 歳と比べてとても若いです。

このため、これからの自分の人生において、起業をして会社の経営者になりたいという人が多いです。

●理由 2：楽観的なキャラクターである

インドネシア人は基本的に、将来に対して楽観的な性格と言えます。

例えば、専門家の視点で見ると「会計帳簿も作れないし、管理部門の組織作りも全く出来ていない。」と思われる会社が多いのですが、本人たちは、その程度のことは気にせず、良い事、良い側面しか考えない人が多いと思われます。

また、多くの人が、自分の給与は継続的にあがって行くのが当然と考えているし、自分の生活は良くなっていくと信じて疑っていません。このような性格なので、あまり根拠が無くても「起業しても上手くいく」、「自分は大きな会社を作ることができる」と、信じる人が多いと思われます。

●理由 3：経済成長が著しく、成功の可能性が高い

インドネシアは、一時より経済成長率は落ち着いたものの、現在も 6%前後の成長を維持しています。

このため、経済全体と共に成長すると、多少の問題点は問題にならないと思われます。需要も大きくなっていくので、新規企業でも新たに仕事を獲得しやすい環境だと思われます。

●理由 4：既得権を守る人や会社がない

インドネシアは発展途上国ですので、日本のように既得権を守る人たちが多くありません。ですので、比較的容易に、新しいビジネスへ参入できると思われます。

<最近のIT起業家とインドネシア>

上記のように起業家の育ちやすい環境にあるインドネシアですので、実際に起業をする人も多いです。

特に、お金持ちの華僑の子供などはインドネシア国籍ですが、大学などの教育をアメリカなどで受けており、非常に合理的な働き方をしているため、起業当初から海外展開を考えており、国際的な考え方で、事業を進めていきます。

また、インドネシアは、教育水準が向上するなど環境が大きく変化したため、50代のインドネシア人と30代のインドネシア人と、同じ国とは思えないほどビジネス上の考え方が違うことも多いです。

<日本とインドネシアの経済交流へ>

インドネシア人は日本人よりも国際的で最新のITに強い起業家も多いと思われます。既に多くの日本のIT企業がインドネシアのスタートアップ起業への投資を行っています。

インドネシアを発展途上国というだけの偏った見方で見ることなく、上記のような側面も認識してインドネシアへの投資を考えていただければ、日本とインドネシアの経済交流も活発になるものと思います。

